

教科(科目)	農業（作物）	単位数	4単位	学年 (コース)	2学年 生物資源科 作物専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおり育成することを目指す。

- (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4 5	第1章 作物生産の役割と動向 1 作物とは 2 作物栽培の動向	・作物が私たちの生活にどのように関わっているかを学ぶ。 ・作物のおい立ちと品種改良の重要性を理解する。 ・世界と日本の作物の生産，輸出入と消費の現状を理解する。	23	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		作物(イネ)の栽培管理実習 種もみの準備 本田の準備 播種・育苗・田植え	生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。		○	○	○	
		定期考査(1学期中間)			1	○	○	
		6 7	第2章 作物の特性と栽培技術 1 作物の種類と特徴 2 作物の生育と生理	・作物には用途や栽培上の特徴からいろいろな分類のしかたがあることを学ぶ。 ・作物の一生を理解する。	27	○	○	
	作物(イネ)の栽培管理実習 水管理 生育調査		生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。 イネの生育状況を調査し，生育時期ごとの変化や特徴をとらえる。	○		○	○	
	定期考査(1学期末)			1		○	○	
	8 9 10		第2章 作物の特性と栽培技術 3 栽培環境と生育の調節	・環境条件が作物の生育にどのような影響を与えるかを学ぶ。 ・作物を栽培するにあたって考えなければならない条件を学ぶ。	27	○	○	
		作物(イネ)の栽培管理実習 収穫・調製 収量調査	収量構成要素の値を算出し，収量や品質を左右する条件とイネの生育との関わりについて理解する。	○		○	○	
		定期考査(2学期中間)				1	○	○
		10 11 12	第3章 イネ 1 栽培的特性 2 栽培管理	・世界と日本のイネの種類や栽培の現状を学ぶ。 ・イネの一生について形態・生理・生態的特徴を学び，米ができるまでの成長過程を理解する。	31	○	○	

		作物(イネ)の栽培管理実習 生育調査・収量調査のまとめ	収量や品質を左右する条件と生育との関わりについて理解する。		○	○	○	
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1	第3章 イネ	・実際に栽培計画と調査・研究計画を立てることができる。 ・日本の稲作経営の状況を理解する。	27				レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	2	3 栽培計画と評価			○	○	○	
	3	4 農業経営の特性			○	○	○	
		作物(イネ)の栽培管理実習 本田の準備 種もみの準備	生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。		○	○	○	
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 140時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培、経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（作物）	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年 生物資源科 野菜専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおりに育成することを目指す。

- (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4 5	第1章 作物生産の役割と動向 1 作物とは 2 作物栽培の動向	・作物が私たちの生活にどのように関わっているかを学ぶ。 ・作物のおい立ちと品種改良の重要性を理解する。 ・世界と日本の作物の生産、輸出入と消費の現状を理解する。	11	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		作物(イネ)の栽培管理実習 種もみの準備 本田の準備 播種・育苗・田植え	生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。		○	○	○	
		定期考査(1学期中間)			1	○	○	
		6 7	第2章 作物の特性と栽培技術 1 作物の種類と特徴 2 作物の生育と生理	・作物には用途や栽培上の特徴からいろいろな分類のしかたがあることを学ぶ。 ・作物の一生を理解する。	13	○	○	
	作物(イネ)の栽培管理実習 水管理 生育調査		生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。 イネの生育状況を調査し、生育時期ごとの変化や特徴をとらえる。	○		○	○	
	定期考査(1学期末)			1	○	○		
	2	8 9 10	第2章 作物の特性と栽培技術 3 栽培環境と生育の調節	・環境条件が作物の生育にどのような影響を与えるかを学ぶ。 ・作物を栽培するにあたって考えなければならない条件を学ぶ。	13	○	○	
作物(イネ)の栽培管理実習 収穫・調製 収量調査			収量構成要素の値を算出し、収量や品質を左右する条件とイネの生育との関わりについて理解する。	○		○	○	
定期考査(2学期中間)			1	○	○			
10 11 12		第3章 イネ 1 栽培的特性 2 栽培管理	・世界と日本のイネの種類や栽培の現状を学ぶ。 ・イネの一生について形態・生理・生態的特徴を学び、米ができるまでの成長過程を理解する。	15	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)

		作物(イネ)の栽培管理実習 生育調査・収量調査のまとめ	収量や品質を左右する条件と生育との関わりについて理解する。		○	○	○	
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1	第3章 イネ	・実際に栽培計画と調査・研究計画を立てることができる。 ・日本の稲作経営の状況を理解する。	13				レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	2	3 栽培計画と評価			○	○	○	
	3	4 農業経営の特性			○	○	○	
		作物(イネ)の栽培管理実習 本田の準備 種もみの準備	生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。		○	○	○	
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培、経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（栽培と環境）	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年 生物資源科・環境科学科
使用教科書	実教出版「栽培と環境」				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栽培植物の育成環境の調整・管理に必要な資質・能力の育成を目指す。

- (1) 栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 栽培と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 栽培と環境について農業生物の栽培や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4 5	1 栽培と環境(第1章) (1)自然環境のなりたち (2)栽培環境のなりたち (3)栽培環境と栽培技術	・環境、自然環境、栽培環境について学ぶ。 ・環境要素について学ぶ。 ・様々な環境要素について学ぶ。 ・環境に適した栽培方法、栽培環境の改良について学ぶ。	11	○ ○ ○	○ ○ ○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(1学期中間)			1			
	6 7	2 気象的要素(第3章) (1)気象と気候 (2)気象と作物の生育 3 土壌的要素(第4章) (1)土壌の役割 (2)土壌の機能	・気象・天気・天候・気候の違いについて学ぶ ・作付体系と作型、気象災害について学ぶ ・土壌の役割と生成について理解する。 ・土壌の保水性・保肥性について学ぶ。	13	○ ○ ○	○ ○ ○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(1学期期末)			1			
	2	8 9 10	3 土壌的要素(続き) (3)土壌中の窒素の動態と土壌肥沃度 (4)肥料の種類と土壌の管理	・有機態窒素と無機態窒素について学ぶ。 ・肥料の種類と施肥方法について学ぶ。 ・土壌管理の必要性和作物に適した農地について学ぶ。	13	○ ○	○ ○	
定期考査(2学期中間)			1					
11 12		4 生物的要素(第5章) (1)農地の生物と害虫防除 (2)作物病害とその防除 (3)雑草害と鳥獣害 (4)農薬使用と総合的有害生物管理	・生物群集と有害生物・天敵について学ぶ。 ・昆虫と害虫の種類について学ぶ。 ・微生物(菌類、細菌、ファイトプラズマ、ウイルス他)の種類と植物病の防除法について学ぶ。 ・雑草の種類と被害、鳥獣害について学ぶ。 ・農薬の使用と使用義務について学ぶ。 ・総合的有害生物管理について学ぶ。	15	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期期末)			1			
3		1 2 3	5 施設型農業の栽培環境(第6章) 6 環境に配慮した栽培実践(第7章)	・園芸施設の種類の構造について学ぶ。 ・園芸施設内の生物制御と複合的な環境管理について学ぶ。 ・環境に配慮した農業について学ぶ。	13	○ ○	○ ○	
				1				

計 70時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようと努力している。	栽培と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ適切に判断できるようにしている。	農業生物の栽培と管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組めるよう努力している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・プリントやレポートなどの提出物があります。 ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

「栽培と環境」では、私たちに身近な、気象的要素、土壌的要素、生物的要素を中心に学習します。1年生の「農業と環境」で学んだ内容を基本にし、2・3年生の各専攻の専門科目の学習内容を補ったり、深めたりします。 担当：野村
--

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年 生物資源科 作物専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおりに育成することを目指す。

- (1) 作物を総合的に捉え、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 作物に関する総合的な課題を発見し、作物や稲作関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 作物や稲作の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4	・オリエンテーション	・安全に実習を行うための確認事項…農業機械、農薬、交通体調管理など	60	○	○	○	
	5	1 育苗の準備、育苗	(1) プール育苗床の作製 (2) 播種の準備 (3) 土壌改良剤の散布 (4) 育苗 播種、出芽、緑化、硬化		○	○	○	
	6	2 本田の管理(1) ・栄養期の管理 ・栄養	入水、落水、移植準備 (5) トラクタの操作 耕起、代かき (6) 田植機による移植 (7) 初中期除草剤散布 (8) 落水、中干し、溝切り		○	○	○	
	7							
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8	3 本田の管理(2)	・環境条件が作物の生育にどのような影響を与えるかを学ぶ。 ・作物を栽培するにあたって考えなければならない条件を学ぶ。	27	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	9	作物の特性と栽培技術						
	10	3 栽培環境と生育の調節						
		作物(イネ)の栽培管理実習 収穫・調製 収量調査	収量構成要素の値を算出し、収量や品質を左右する条件とイネの生育との関わりについて理解する。		○	○	○	
		定期考査(2学期中間)		1	○	○		
	10	第3章 イネ	・世界と日本のイネの種類や栽培の現状を学ぶ。	31	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	11	1 栽培的特性			○	○		
	12	2 栽培管理	・イネの一生について形態・生理・生態的特徴を学び、米ができるまでの成長過程を理解する。		○	○		
		作物(イネ)の栽培管理実習 生育調査・収量調査のまとめ	収量や品質を左右する条件と生育との関わりについて理解する。		○	○	○	
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1	第3章 イネ	・実際に栽培計画と調査・研究	27				レポート・プリント (記述の確認)
	2	3 栽培計画と評価	計画を立てることができる。		○	○	○	

	3	4 農業経営の特性	・日本の稲作経営の状況を理解する。		○	○	○	実習の様子 (行動の確認)
		作物(イネ)の栽培管理実習 本田の準備 種もみの準備	生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。		○	○	○	
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 140時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画, 管理, 評価など作物の栽培と経営に関する基本的, 体系的な知識を身に付け, 作物の栽培, 経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し, その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び, 栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年野菜
使用教科書					
副教材等					

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	春夏野菜の栽培管理収穫	播種、ポット上げ、たい肥散布、基肥、定植、追肥、かん水、	26	○	○	○	
	5	接ぎ木等 キュウリ トマト	敵芯、整枝、除草、病虫害防除、					
	6	ジャガイモ ナス ピーマン	販売実習、野菜の撤去等。 ・各野菜の栽培方法や管理技術を学ぶ。					
	7	スイートコーン オクラ	・各野菜の収穫・調整方法を学ぶ。 ・病虫害について学ぶ。					
	8	アマナガトウガラシ	・栽培管理を記録する習慣を身に付ける。					
期 末 考 査								

二 学 期	9	秋野菜の栽培管理収穫	播種、ポット上げ、たい肥散布、基肥、定植、追肥、かん水、 敵芯、整枝、除草、病害虫防除、 販売実習、野菜の撤去等。 ・各野菜の栽培方法や管理技術を学ぶ。 ・各野菜の収穫・調整方法を学ぶ。 ・病害虫について学ぶ。 ・栽培管理を記録する習慣を身に付ける。	30	○	○	○	
	10	キャベツ						
	11	ハクサイ						
	12	ブロッコリー						
	1	カリフラワー						
	2	サトイモ						
	3	ハウレンソウ						
	4	ネギ						
	5	セルリー						
	6	ニンニク						
三 学 期	7	サトイモ	施設での栽培管理 ミニトマト 葉物野菜 接ぎ木育苗 ナス 春夏野菜の播種栽培管理	14	○	○	○	
	8	サツマイモ						
	9	中玉トマト						
	10	期 末 考 査						
	11	学 年 末 考 査						

計 7 0 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜の基本的な栽培管理など野菜に関する基本的な知識や技術を栽培実習において正しく技術を習得する。	野菜の特性と栽培管理などについて思考を深め、その生育状況に応じた栽培管理や課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	野菜の特性と栽培管理、生産性などに興味や関心を持ち、野菜の知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、栽培実習を通じて主体的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果、レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの提出状況 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・レポートの記入・提出 ・レポート・課題の作成・提出 ・
--

5 担当者からの一言

実際に農場で作物を育て、日々成長する作物の調査・観察をととして作物から自分自身が学ぶ姿勢が大切となります。愛情を込めて作物を育て、積極的に作物へ関わって欲しいと思います。そして、農業の持つ魅力を自分自身の肌で感じ取ってもらいたいと思います。

(担当：)

教科(科目)	農業（畜産）	単位数	4単位	学年(コース)	2学年 動物専攻
使用教科書	実教出版 畜産				
副教材等					

1 学習目標

家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させ、その特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

- (1) 各家畜の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に授業・実習に参加するとともに知識・技術について理解する。
- (2) 各家畜の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、家畜に対し適切な管理法が実践できる。
- (3) 家畜の健康状態を観察し、状況を把握する能力を身につける。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り

組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期		家畜の生理・生態と環境 養鶏	家畜の家畜化	10 8 24	○		○	授業補助プリント (記述の点検) 中間考査 期末考査
			乳牛の実習・実験・観察		○	○	○	
			肉牛の実習・実験・観察		○		○	
			(家畜審査競技の学習)		○		○	
			ニワトリの品種の選び方		○		○	
			ブタの品種の選び方		○		○	
			乳牛の品種の選び方		○		○	
			肉牛の品種の選び方		○		○	
			ニワトリの特性		○		○	
			種卵～ふ化		○		○	
2 学期		養鶏	ニワトリの特性	42	○		○	授業補助プリント (記述の点検) 中間考査
			施設・設備とその特徴		○		○	
			繁殖の生理		○		○	
			育すう		○		○	

			産卵鶏の飼育管理 予防衛生と病気 養鶏の経営 ニワトリの実習・実験・観察（産卵鶏の解剖）		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	期末考査
3 学期		養豚	ブタの特性 養豚の施設・設備とその利用 ブタの繁殖 子豚の育成 肉豚の肥育 豚肉の流通 ブタの病気と予防衛生	38	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業補助プリント （記述の点検） 学年末考査

計 140 時間（50分授業）

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・学校で飼育する家畜に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、各家畜の意義や役割を理解している。 ・各家畜に対し、基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。	・畜産に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、畜産に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	・家畜の飼育と畜産経営に関する諸課題について興味・関心を持ち、その改善・向上を目指し主体的に取り組む姿勢を身につけている。 ・協調性を持って実習に臨む姿勢がある。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ 授業ごとにレポート提出があります。
- ・ 長期休業中に実習があります。
- ・ 農業クラブ主催の家畜審査競技県大会には全員参加します。

5 担当者からの一言

- ・年間をとおり、季節・時期により特別実習を行います。
- ・クラスルーム・ロイロノートなど積極的に利用していきます。

(担当： 櫻井)

教科(科目)	農業（野菜）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 作物専攻
使用教科書	「野菜」実教出版				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	第1章 野菜生産と役割の動向 1 野菜の種類と特徴 2 野菜の消費	・野菜の種類と利用を学ぶ。 ・野菜の分類について学ぶ。 ・消費動向の変化を学ぶ。 ・野菜の消費量を学ぶ。	24	○ ○ ○	○ ○ ○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		中 間 考 査				○	○	
	5 6 7	3 野菜の生産と供給	・消費の多様化を学ぶ。 ・野菜の生産と供給のしくみ ・野菜栽培と生産動向を学ぶ。 ・野菜の輸入と輸出を学ぶ。 ・野菜の流通を学ぶ。 ・知的財産の保護を学ぶ。	28	○ ○ ○	○ ○ ○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
期 末 考 査				○	○			
二学期	8 9 10	4 野菜の安全性	・安全・安心な野菜 ・環境に優しい野菜栽培を学ぶ。 ・生活のなかの野菜栽培を学ぶ。	20	○ ○ ○	○ ○ ○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		第2章 1 野菜の生育と生理	・野菜の生育を学ぶ。 ・種子と発芽を学ぶ。 ・茎と葉の成長を学ぶ。					
		中 間 考 査				○		
			・光合成のしくみと物質の生産	44	○ ○	○ ○		レポート・プリント (記述の確認)

	11		・根の発達と肥大を学ぶ。 ・葉菜類の花芽形成と抽苔 ・果菜類の花芽分化と果実 発育		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	実習の様子 (行動の確認)
	12	2 野菜の栽培環境と生育調節	・休眠について理解する。 ・光環境とその調節を学ぶ。 ・温度環境とその調節を学ぶ。		○	○		
		期 末 考 査			○	○		
三 学 期	1		・風、ガス環境とその調節 ・地下茎の環境とその調節 ・合理的作付けと輪作を 理解する。	24	○ ○ ○	○ ○ ○	○	レポート・プリント (記述の確認)
	2		・露地栽培を理解する。		○	○		実習の様子 (行動の確認)
	3	3 人工環境における栽培技術	・施設を利用した栽培 ・養液栽培を理解する。 ・植物工場を学ぶ。		○	○		
		学 年 末 考 査			○	○		

計 140 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	野菜の基本的な栽培管理など 野菜に関する基本的な知識や 技術を栽培実習において正しく 技術を習得する。	野菜の特性と栽培管理などについて 思考を深め、その生育状況に応じた 栽培管理や課題を適切に判断すると ともに、合理的に解決し、表現する 能力を身につけている。	野菜の特性と栽培管理、生産性などに 興味や関心を持ち、野菜の知識、 技術の習得に意欲的に取り組むと ともに、栽培実習を通じて主体的に 取り組む態度を身につけている。
評価 方法	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポート等の取り組み状況・ 内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの取り組み状況・ 内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の 分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの取り組み状況・ 内容確認 ・ノートの記述 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・プリントやレポートなどの提出物があります。 ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

野菜の生産と経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する知識や技術を体系的・系統的に理解し、各種栽培管理から販売実習までを学習します。

教科(科目)	農業（野菜）	単位数	4単位	学年(コース)	2学年野菜
使用教科書	「野菜」実教出版				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考				
					知	思	主					
一学期	4	第1章 野菜生産と役割の動向 1 野菜の種類と特徴 2 野菜の消費	・野菜の種類と利用を学ぶ。 ・野菜の分類について学ぶ。 ・消費動向の変化を学ぶ。 ・野菜の消費量を学ぶ。	24	○ ○ ○	○ ○ ○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)				
		中 間 考 査				○	○					
	5 6 7	3 野菜の生産と供給	・消費の多様化を学ぶ。 ・野菜の生産と供給のしくみ ・野菜栽培と生産動向を学ぶ。 ・野菜の輸入と輸出を学ぶ。 ・野菜の流通を学ぶ。 ・知的財産の保護を学ぶ。	28	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)				
					期 末 考 査				○	○		
	二学期	8 9	4 野菜の安全性	・安全・安心な野菜 ・環境に優しい野菜栽培を学ぶ。 ・生活のなかの野菜栽培を学ぶ。	20	○ ○ ○	○ ○ ○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)			
第2章 1 野菜の生育と生理			・野菜の生育を学ぶ。 ・種子と発芽を学ぶ。 ・茎と葉の成長を学ぶ。									
10		中 間 考 査				○	○					
				・光合成のしくみと物質の生産	44	○ ○	○ ○		レポート・プリント (記述の確認)			

	11		・根の発達と肥大を学ぶ。 ・葉菜類の花芽形成と抽苔 ・果菜類の花芽分化と果実 発育		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	実習の様子 (行動の確認)
	12	2 野菜の栽培環境と生育調節	・休眠について理解する。 ・光環境とその調節を学ぶ。 ・温度環境とその調節を学ぶ。		○	○		
		期 末 考 査			○	○		
三 学 期	1		・風、ガス環境とその調節 ・地下茎の環境とその調節 ・合理的作付けと輪作を 理解する。	24	○ ○ ○	○ ○ ○	○	レポート・プリント (記述の確認)
	2		・露地栽培を理解する。		○	○		実習の様子 (行動の確認)
	3	3 人工環境における栽培技術	・施設を利用した栽培 ・養液栽培を理解する。 ・植物工場を学ぶ。		○	○		
		学 年 末 考 査			○	○		

計 140 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	野菜の基本的な栽培管理など 野菜に関する基本的な知識や 技術を栽培実習において正しく 技術を習得する。	野菜の特性と栽培管理などについて 思考を深め、その生育状況に応じた 栽培管理や課題を適切に判断すると ともに、合理的に解決し、表現する 能力を身につけている。	野菜の特性と栽培管理、生産性などに 興味や関心を持ち、野菜の知識、 技術の習得に意欲的に取り組むと ともに、栽培実習を通じて主体的に 取り組む態度を身につけている。
評価 方法	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポート等の取り組み状況・ 内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの取り組み状況・ 内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の 分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの取り組み状況・ 内容確認 ・ノートの記述 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・プリントやレポートなどの提出物があります。 ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

野菜の生産と経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する知識や技術を体系的・系統的に理解し、各種栽培管理から販売実習までを学習します。

教科(科目)	農業（食品製造）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（動物科学）
使用教科書	「食品製造」 実教出版				
副教材等					

1 学習目標

食品の製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学 期	4	第1章 食品製造の意義と動向	・「食品」を正しく理解する ・食品製造の目的を学ぶ ・食品の分類について学ぶ	4	○	○		製造実習に向けた基礎知識を習得させる。
	5	1 食品製造の意義 2 食品産業の現状と動向		8	○			
		第4章 食品加工と食品衛生	・食品の安全を守るための食品衛生の重要性を理解する。			○		
		1 食品と食品衛生 2 食中毒 3 食品による危害と安全確保 4 食品添加物	・食品衛生行政のしくみを学ぶ。 ・食品衛生に関する法律には、どのようなものがあるかを知る。					
		1 学期中間考査		1	○	○		
	6	○穀類の加工	・小麦粉菓子の製造実習を通して製造実習の心得や実習室の使用ルールを学習する。	4	○	○		授業の様子（行動確認） 実験実習の様子（行動確認） レポート・演習プリント（記述の確認）
		第7章 畜産物の加工 3 鶏卵の加工	・鶏卵の構造と新鮮度測定 ・ゆで卵と温泉卵実習 ・マヨネーズ製造実習	8	○	○	○	
		1 学期期末考査		1	○	○		
2	7 9	第7章 畜産物の加工 2 牛乳の加工	・牛乳の生産 ・牛乳の製造	12	○	○	○	授業の様子（行動確認） 実験実習の様子（行動確認）

学 期			・生乳の低温殺菌実習 ・ヨーグルト製造実習 ・ナチュラルチーズ製造実習					レポート・演習プリント (記述の確認)
	10	2学期中間考査		1	○			
	11	第7章 畜産物の加工 1 肉類の加工	・食肉処理と格付け (食肉センター見学)	8	○	○		授業の様子(行動確認) 実験実習の様子(行動確認) レポート・演習プリント (記述の確認)
	12	2学期期末考査		1	○			
3 学 期	12 1	○穀類の加工 第7章 畜産物の加工 1 肉類の加工	・デコレーションケーキ製造 実習 ・豚肉加工品の製造実習 ・鶏加工品の製造実習	4 8	○ ○	○ ○	○ ○	授業の様子(行動確認) 実験実習の様子(行動確認) レポート・演習プリント (記述の確認)
	2	学年末考査		1	○	○		
	2 3	第3章 食品の変質と貯蔵 1 食品の変質とその原因 2 食品の貯蔵法 第5章 食品の包装と表示 1 食品の包装 2 加工食品の表示制度	・食品が変質する原因を理解 する。 ・変質した食品が、どのような ようすを示すかを学ぶ。 ・食品包装の目的を理解し、 その種類を知る。 ・包装技術を学ぶ	4 5	○ ○	○ ○		畜産加工品を販売する ための基礎知識を習得 させる。

計 70 時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	・食品製造について体系的・系統的に 理解しているとともに、関連する 技術を身に付けている	・食品製造に関する課題を発見し、農 業や農業関連産業に携わる者とし て合理的かつ創造的に解決する力 が身につけている。	・食品や食品加工について理解し、農 業の各分野で応用できるよう自ら 学び、農業の振興や社会貢献に主 体的に取り組む態度を身に付けて いる。
評価 方 法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、製造技術の習得 ・演習プリントやレポートなどの提 出物の内容の確認 などから、評価し ます。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、製造実習態度・姿勢 ・授業中の発言、発表などの活動の取 り組みを観察 ・演習プリントやレポート、提出物の 内容の確認 などから、評 価します。	以上の観点を踏まえ、 ・製造実習態度・姿勢 ・授業中の発言、発表などの活動の取 り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提 出物の内容の確認 などから、評 価します。

4 課題・提出物等

・ 演習プリントやレポートなどの提出物があります。 ・ I C Tを活用した課題や提出物があります。 ・ 長期休業中の課題は別途指示します。	
--	--

5 担当者からの一言

動物専攻で生産する畜産物の食品として特性を学ぶとともに、どのような畜産物生産を目指すべきかを実習を通じて体験的に学んでいきます。この科目の学習を3年次からの学習に役立ててもらいたいと思います。そのためにも意欲を持って学んで欲しいと思います。

(担当：諸橋)

令和6年度シラバス（農業）

学番25 新潟県立新発田農業高等学校

教科(科目)	農業（作物）	単位数	4単位	学年 (コース)	3学年 生物資源科 作物専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおりに育成することを目指す。

- (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4 5	栽培管理 苗の生育	・種籾の準備：塩水選、温湯消毒、浸種、催芽 ・育苗：プールの作成、整地 ・水田準備：基肥散布、耕起	23	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(1学期中間)		1	○	○		
	6 7	イネの移植 本田の管理 生育調査	・田植え作業の実践 ・移植後の水管理 ・中干し、溝切り	27	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8 9 10	追肥、病害虫の防除 収穫と調製	・収量構成要素 単位面積あたりの植え付け株数 平均一株穂数 平均一穂もみ数 登熟歩合 玄米一粒重 ・収穫、調整：コンバイン操作、乾燥、調整、袋詰め	27	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期中間)		1	○	○		
	10 11 12	品質と高価値化 収量調査 品質調査	・米の品質：完全米、不完全米（腹白米、背白米、心白米等） ・米の食味調査	31	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1	栽培評価	栽培の評価：結果と考察	27	○	○	○	レポート・プリント

2	3	稲作経営の特性 流通と経営	稲作経営の特性：米の流通、新しい 経営を目指して					(記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 140時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	作物の生育と環境の調節及び栽培計画, 管理, 評価など作物の栽培と経営に関する基本的, 体系的な知識を身に付け, 作物の栽培, 経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し, その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び, 栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 - 定期考査の分析 - プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 定期考査の分析 - 授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 - プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 振り返りシートや自己評価票などの分析 - 授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 - プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- プリントやレポートなどの提出物があります。 - 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	3単位	学年 (コース)	3学年 生物資源科 作物専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおりに育成することを目指す。

- (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4	育苗の準備	・育苗ハウスの準備 ハウス内の整地	38	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	5	播種 本田の準備	・プール育苗床の作成 ・播種					
	6	移植（田植え）	・土壌改良材等散布 ・トラクタの操作					
	7	除草剤散布 中干し・溝切り	・田植機による移植 ・育苗資材等や田植機の洗浄と整理 ・ジャンボ剤等の投げ込み ・中干し ・溝切り	1	○	○		
		定期考査(1学期末)						
2	8	収穫・調整の準備	・コンバインによる収穫	44	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	9	収穫	・乾燥・調整・包装、農産物検査					
	10	調整	・精米・袋詰め					
	11	精米・袋詰め 販売	・販売	1	○	○		
	12	収量調査	・乾燥調整施設の清掃 ・籾殻の散布 ・収量調査					
		定期考査(2学期末)						
3	1	本田の管理	・排水溝の準備	20	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	2	今年度のまとめ	・生育状況、収量結果から分析し、まとめを実施					
	3		・分析結果から次年度の改善点、要望をまとめる					
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 105時間 (50分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画, 管理, 評価など作物の栽培と経営に関する基本的, 体系的な知識を身に付け, 作物の栽培, 経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し, その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び, 栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（農業機械）	単位数	2単位	学年 (コース)	3学年 生物資源科（作物専攻）
使用教科書	実教出版「農業機械」				
副教材等	なし				

1 学習目標

- 農業機械化の意義と役割、またその利用と現状を把握する。
 ○農業機械の操作に伴い、道路交通法等を学び基本運転操作を身につけ、事故防止に努める。
 ○様々な機械の作業を通じて機械名と作業手順を把握する。
 ○内燃機関・電動機について学び、使用燃料と動力伝達について理解する。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4 5	農業機械の役割 作業機 トラクタ	・耕うん、整地用機械 ・たねまき機、育苗用機械 ・移植機の基本操作 ・除草機 ・作業機の装着 ・乗用トラクタの種類と基本操作	11	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(1学期中間)		1	○	○		
	6 7	原動機 トラクタ 作業機	・4サイクルガソリンエンジンの作動原理 ・4サイクルガソリンエンジンの構造 ・そのほかのエンジン ・燃料と潤滑油 ・電動機の種類と回転原理 ・三相誘導電動機の取扱い ・点検調整 ・歩行用トラクタ ・乗用トラクタの種類と基本操作 ・飼料作用収穫・調整機械	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8 9 10	トラクタ 作業機 農業機械と安全	・けん引の基本操作 ・稲作用収穫、調整機械の種類と利用 ・コンバイン及びもみすり機の構造、特徴 ・耕耘整地用機械 ・飼料作用収穫、調整機械 ・育成管理用機械 ・畑作用収穫、調整機械 ・農業機械の整備と保守 ・ガス溶接、アーク溶接の利点と取扱い	15	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期中間)		1	○	○		
	10 11 12	作業機 農業機械と安全	・運搬用機械の種類と操作方法 ・環境調節用機械の利点と	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子

			構造 ・農作業による事故と健康 障害					(行動の確認)
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1 2 3	農業生産と農業機械の 利用	・農業生産における農業機 械の利点	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 70 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	農業機械に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業機械の意義や役割を理解している。 農業機械の取扱いと正確・安全な運転操作を身に付け、その技術を適切に活用している。	農業機械の維持管理に必要な知識と技術を基に、農業機械を利用する者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	農業機械に関する諸課題について興味・関心をもち、その利点・効果を利用して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価 方 法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

農業機械は、作物栽培において重要な分野です。作物の品質と生産性の向上を図り、農業機械の操作と事故を防ぐための知識と技術を身に付けます

教科(科目)	農業（野菜）	単位数	4単位	学年(コース)	3学年野菜
使用教科書	「野菜」実教出版				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り

組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	第3章 野菜の品種改良と繁殖 1 品種改良の目的と方法 2 育苗の目的と方法	・品種改良の歴史と目的について学ぶ。 ・品種改良の方法を学ぶ。 ・育苗の意義と良苗の条件について学ぶ。	24	○ ○ ○	○ ○ ○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		中間考査			○	○		
	5	3 育苗技術の実際と応用	・育苗、苗生産の歴史と現状について理解する。 ・野菜苗の育苗方法について理解する。 ・育苗培地の種類と作成法について理解する。 ・種まき及び個々の育苗管理技術について学ぶ。 ・つぎ木育苗技術について理解する。	28	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	6				○	○		
	7							
		期末考査			○	○		
二学期	8		・セル成型苗生産とその利用 ・栄養系苗生産とバイオテクノロジーを学ぶ。	20	○ ○	○ ○		レポート・プリント (記述の確認)
	9		・企業による苗生産、苗販売 ・企業的苗生産の実際を学ぶ。		○	○	○	実習の様子 (行動の確認)

	10	中 間 考 査			○	○	
	11	第4章 果実を利用する野菜の栽培	・トマトについて理解する。 ・ナスについて理解する。 ・ピーマンについて理解する。 ・キュウリについて学ぶ。 ・温室メロンについて学ぶ。	44	○	○	○
	12	第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培	・キャベツについて学ぶ。 ・ハクサイについて学ぶ。 ・レタスについて学ぶ。		○	○	○
		期 末 考 査			○	○	
三 学 期	1		・ネギについて学ぶ。 ・経営上の特性を理解する。	24	○	○	○
		学 年 末 考 査			○	○	

計 140 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜の基本的な栽培管理など野菜に関する基本的な知識や技術を栽培実習において正しく技術を習得する。	野菜の特性と栽培管理などについて思考を深め、その生育状況に応じた栽培管理や課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	野菜の特性と栽培管理、生産性などに興味や関心を持ち、野菜の知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、栽培実習を通じて主体的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポート等の取り組み状況・内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習状況の観察 ・定期考査の結果 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票の分析 ・学習状況の観察 ・レポートなどの取り組み状況・内容確認 ・ノートの記事 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

野菜の生産と経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する知識や技術を体系的・系統的に理解し、各種栽培管理から販売実習までを学習します。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年野菜
使用教科書					
副教材等					

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	春夏野菜の栽培管理収穫	播種、ポット上げ、たい肥散布、基肥、定植、追肥、かん水、	26	○	○	○	
	5	接ぎ木等	敵芯、整枝、除草、病虫害防除、					
	6	キュウリ トマト ジャガイモ	販売実習、野菜の撤去等					
	7	ナス ピーマン スイートコーン オクラ アマナガトウガラシ	・各野菜の栽培方法や管理技術を学ぶ。 ・各野菜の収穫・調整方法を学ぶ。 ・病虫害について学ぶ。 ・栽培管理を記録する習慣を身に付ける。					
期 末 考 査								

二 学 期	8 9 10 11 12 1	秋野菜の栽培管理収穫 キャベツ ハクサイ ブロッコリー カリフラワー サトイモ ホウレンソウ ネギ セルリー ニンニク サトイモ サツマイモ 中玉トマト	播種 ポット上げ、たい肥散布、 基肥、定植、追肥、かん水、 敵芯、整枝、除草、病虫害防 除、 販売実習、野菜の撤去等 ・各野菜の栽培方法や管理 技術を学ぶ。 ・各野菜の収穫・調整方法を 学ぶ。 ・病虫害について学ぶ。 ・栽培管理を記録する習慣 を身に付ける。	30	○	○	○	
		期 末 考 査						
		施設での栽培管理 ミニトマト 葉物野菜 接ぎ木育苗 ナス 春夏野菜の播種栽培管 理	・施設栽培の管理技術を学 ぶ。 ・露地栽培との違いを学ぶ。 接ぎ木育苗を行い、来春の 準備をする。	14	○	○	○	
		学 年 末 考 査						
三 学 期	2 3							

計 7 0 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 観 点	野菜の基本的な栽培管理など 野菜に関する基本的な知識や 技術を栽培実習において正し く技術を習得する。	野菜の特性と栽培管理など について思考を深め、その生育状 況に応じた栽培管理や課題を 適切に判断するとともに、合理 的に解決し、表現する能力を身 につけている。	野菜の特性と栽培管理、生産性 などに興味や関心を持ち、野菜 の知識、技術の習得に意欲的に 取り組むとともに、栽培実習を 通じて主体的に取り組む態度 を身につけている。
評 価 方 法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果、レポートの作 成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの提出状況 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・レポートの記入・提出 ・レポート・課題の作成・提出 ・
--

5 担当者からの一言

実際に農場で作物を育て、日々成長する作物の調査・観察をととして作物から自分自身が学ぶ姿勢が大切となります。愛情を込めて作物を育て、積極的に作物へ関わって欲しいと思います。そして、農業の持つ魅力を自分自身の肌で感じ取ってもらいたいと思います。

(担当：)

教科(科目)	農業（畜産）	単位数	4単位	学年(コース)	3学年 動物専攻
使用教科書	実教出版 畜産				
副教材等					

1 学習目標

家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させ、その特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

- (2) 各家畜の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に授業・実習に参加するとともに知識・技術について理解する。
- (2) 各家畜の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、家畜に対し適切な管理法が実践できる。
- (4) 家畜の健康状態を観察し、状況を把握する能力を身につける。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り

組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期		家畜の飼育	肉牛の特性	10	○		○	授業補助プリント
		肉牛の飼育	乳牛の実験・実習・観察	8	○	○	○	(記述の点検)
			肉牛の実験・実習・観察		○		○	中間考査
			(家畜審査競技の学習)	4	○		○	
			肉牛の施設・設備とその利用	20	○		○	期末考査
			肉牛の繁殖と育成		○		○	
					○		○	

2 学 期		家畜と飼料	肉牛の繁殖と育成	10	○	○	授業補助プリント (記述の点検)
				8			中間考査
				10			
			肉牛の肥育	4	○	○	
			肉牛の病気と予防	16	○	○	
			肉牛の経営		○	○	
3 学 期		家畜の飼育	家畜の消化器官と飼料の消化・吸収		○	○	期末考査
					○	○	
			飼料の特性と給与	12	○	○	授業補助プリント (記述の点検)
			飼料作物の特徴と草地管理	12	○	○	
				4		○	
			乳牛の特性	10	○	○	
			乳牛の飼育管理		○	○	
					○	○	
					○	○	
					○	○	学年末考査
					○	○	
					○	○	

計 140 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・学校で飼育する家畜に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、各家畜の意義や役割を理解している。 ・各家畜に対し、基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。	・畜産に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、畜産に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	・家畜の飼育と畜産経営に関する諸課題について興味・関心を持ち、その改善・向上を目指し主体的に取り組む姿勢を身につけている。 ・協調性を持って実習に臨む姿勢がある。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ 授業ごとにレポート提出があります。
- ・ 長期休業中に実習があります。
- ・ 農業クラブ主催の家畜審査競技県大会には全員参加します。

5 担当者からの一言

- ・ 年間をとおり、季節・時期により特別実習を行います。
- ・ クラスルーム・ロイロノートなど積極的に利用していきます。

(担当： 前島)

教科(科目)	農業（農業機械）	単位数	2 単位	学年 (コース)	3 学年 生物資源科（動物専攻）
使用教科書	実教出版「農業機械」				
副教材等	なし				

1 学習目標

- 農業機械化の意義と役割、またその利用と現状を把握する。
 ○農業機械の操作に伴い、道路交通法等を学び基本運転操作を身につけ、事故防止に努める。
 ○様々な機械の作業を通じて機械名と作業手順を把握する。
 ○内燃機関・電動機について学び、使用燃料と動力伝達について理解する。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4 5	農業機械の役割 作業機 トラクタ	・耕うん、整地用機械 ・たねまき機、育苗用機械 ・移植機の基本操作 ・除草機 ・作業機の装着 ・乗用トラクタの種類と基本操作	11	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(1学期中間)		1	○	○		
	6 7	原動機 トラクタ 作業機	・4サイクルガソリンエンジンの作動原理 ・4サイクルガソリンエンジンの構造 ・そのほかのエンジン ・燃料と潤滑油 ・電動機の種類と回転原理 ・三相誘導電動機の取扱い ・点検調整 ・歩行用トラクタ ・乗用トラクタの種類と基本操作 ・飼料作用収穫・調整機械	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8 9 10	トラクタ 作業機 農業機械と安全	・けん引の基本操作 ・稲作用収穫、調整機械の種類と利用 ・コンバイン及びもみすり機の構造、特徴 ・耕耘整地用機械 ・飼料作用収穫、調整機械 ・育成管理用機械 ・畑作用収穫、調整機械 ・農業機械の整備と保守 ・ガス溶接、アーク溶接の利点と取扱い	15	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期中間)		1	○	○		
	10 11 12	作業機 農業機械と安全	・運搬用機械の種類と操作方法 ・環境調節用機械の利点と	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子

			構造 ・農作業による事故と健康 障害					(行動の確認)
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1 2 3	農業生産と農業機械の 利用	・農業生産における農業機 械の利点	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 70 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	農業機械に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業機械の意義や役割を理解している。 農業機械の取扱いと正確・安全な運転操作を身に付け、その技術を適切に活用している。	農業機械の維持管理に必要な知識と技術を基に、農業機械を利用する者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	農業機械に関する諸課題について興味・関心をもち、その利点・効果を利用して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価 方 法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

5 担当者からの一言

農業機械は、作物栽培において重要な分野です。作物の品質と生産性の向上を図り、農業機械の操作と事故を防ぐための知識と技術を身に付けます

教科(科目)	農業（畜産）	単位数	2単位	学年(コース)	3年選択畜産
使用教科書	実教出版 畜産				
副教材等					

1 学習目標

家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させ、その特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

(3) 各家畜の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に授業・実習に参加するとともに知識・技術について理解する。

(2) 各家畜の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、家畜に対し適切な管理法が実践できる。

(5) 家畜の健康状態を観察し、状況を把握する能力を身につける。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り

組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1 学期		家畜の生理・生態と環境 養鶏	家畜の家畜化	4 20	○		○	授業補助プリント (記述の点検) 中間考査 期末考査
			ニワトリの品種の選び方		○	○	○	
			ブタの品種の選び方		○		○	
			乳牛の品種の選び方					
			肉牛の品種の選び方		○	○	○	
			ニワトリの特性		○		○	
			種卵～ふ化		○		○	
					○		○	
2 学期		養鶏	ニワトリの特性	30	○		○	授業補助プリント (記述の点検) 中間考査 期末考査
			施設・設備とその特徴		○		○	
			繁殖の生理		○		○	
			育すう		○		○	
			産卵鶏の飼育管理		○		○	
			予防衛生と病気		○		○	

			養鶏の経営 ニワトリの実習・実験・ 観察（産卵鶏の解剖）		○ ○		○ ○	
3 学期		養豚	ブタの特性 養豚の施設・設備とそ の利用 ブタの繁殖 子豚の育成 肉豚の肥育 豚肉の流通 ブタの病気と予防衛生	16	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業補助プリント (記述の点検) 学年末考查

計 70 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	・学校で飼育する家畜に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、各家畜の意義や役割を理解している。 ・各家畜に対し、基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。	・畜産に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、畜産に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	・家畜の飼育と畜産経営に関する諸課題について興味・関心を持ち、その改善・向上を目指し主体的に取り組む姿勢を身につけている。 ・協調性を持って実習に臨む姿勢がある。
評価 方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。

4 課題・提出物等

・ 授業ごとにレポート提出があります。 ・ 長期休業中に実習があります。 ・ 農業クラブ主催の家畜審査競技県大会には全員参加します。
--

5 担当者からの一言

- ・年間をとおり、季節・時期により特別実習を行います。
- ・クラスルーム・ロイロノートなど積極的に利用していきます。

(担当： 前島)

教科(科目)	農業（農業経営）	単位数	2 単位	学年 (コース)	3 学年 生物資源科・環境科学科
使用教科書	実教出版「農業経営」				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力の育成を目指す。

- (1) 農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働性に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
1	4	第1章	・世界の農業の現状を理解する。	11	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 座学の様子 (行動の確認)
	5	農業の動向と農業経営	・日本の農業の現状を理解する。		○	○		
		1 日本と世界の農業	・さまざまな農業経営を学ぶ。		○	○		
		2 農業経営の動向	・こんにちの農業経営を理解する。				○	
		3 食料消費の動向と社会 経済環境	・食料の需要と貿易を学ぶ。		○	○		
		4 食料・農業・農業政策 と関係法規	・食料、農業、農業政策について学ぶ。		○	○		
			・グローバル化に対する農政を学ぶ。					
		定期考査(1学期中間)		1				
	6	第2章	・マネジメントの考え方を学ぶ。	16	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 座学の様子 (行動の確認)
	7	農業のマネジメント	・農業経営の目標を学ぶ。		○	○		
		1 農業マネジメント	・単一経営と多角経営を学ぶ。				○	
		2 生産のマネジメント	・集約化と規模拡大を学ぶ。		○	○		
		3 組織のマネジメント	・農業経営の集团的取り組みを学ぶ。					
			・農業協同組合を学ぶ。					
		定期考査(1学期期末)		1				
2	8	4 会計によるマネジメント	・会計と簿記について学ぶ。	16	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 座学の様子 (行動の確認)
		5 リスクのマネジメント	・資産、負債、純資産と貸借対照表を学ぶ。		○	○		
	9	第3章	・収益と費用と損益計算書を学ぶ。		○	○		
		農業のマーケティング	・マーケティングの導入について学ぶ。				○	
	10	1 農業マーケティングの概要	・農産物の市場と流通について学ぶ。		○	○		
		2 農業のマーケティング戦略	・農業のマーケティング活動を学ぶ。					
		定期考査(2学期中間)		1				
	11	3 農産物のブランド化	・農産物のブランドの意味とブランド化。	15	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 座学の様子 (行動の確認)
		第4章	・市場調査の内容と手順を学ぶ。		○	○		
		農業経営のマーケティング活動	・環境分析の内容と手順を学ぶ。				○	
		1 市場調査と環境分析	・6次産業化の茶業経営にみる市場調査。		○	○		
		2 市場調査・環境分析の 進め方	・環境分析の作業の実際について学ぶ。					
			・外部環境、内部環境の検討について学ぶ		○	○		
		定期考査(2学期期末)		1				
3	1	3 農業経営の設計と診断	・農業経営設計とはを学ぶ。	7	○	○		レポート・プリント (記述の確認) (行動の確認)
		6 環境に配慮した栽培 実践(第7章)	・農業経営診断の進め方について学ぶ。 ・経営診断の指標について学ぶ。				○	
				1				

計 70 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようと努力している。	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ適切に判断できるようにしている。	農業経営に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組めるよう努力している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、授業での活動や取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の課題等があります。

5 担当者からの一言

この科目では、農業経営の現状や今日的な課題、農産物などの流通、販売を中心とした食料などの需要に関する社会的な役割等について学習します。また、消費者ニーズの多様化、農業経営のグローバル化や法人化、六次産業化などについて知識を深め、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けます。

教科(科目)	農業（生物活用）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年野菜
使用教科書	「生物活用」実教出版				
副教材等					

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指してみずから学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り

組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点 ※			備考
					知	思	主	
一学期	4	”第 1 章 生物活用の意義と役割 1 生物活用と意義と役割 2 生物活用とプロジェクト学習”	○園芸作物や社会動物の活用の重要性と生物の活用がもたらす人間への効用などの情報を収集し、適切に選択して活用させる。 ○生物活用を学ぶ目的を理解させる。 ○植物や園芸がもつさまざまな効用について理解させる。	32	○	○	○	
	5							
	6							
	7							
		期 末 考 査						

	8 9 10 11 12 1	第 2 章園芸作物の栽培と活用 1 植物・園芸と人間生活 2 草花の栽培と活用 3 野菜・ハーブの栽培と活用” 第 4 章 生物を活用した療法 1 生物を活用した療法 2 園芸療法 3 動物介在療法	○動物や植物などを活用した療法について理解させた上で、生物を活用した活動との違いについても理解させる。 ○動物や植物を活用した交流活動の流れについて理解させる。 ○対象者の特徴をふまえた、交流活動の実施について理解させる。 ○交流活動の資源や対象者の特徴をふまえた、交流活動の計画の立案や実施について理解させる。 ○生物を活用した交流活動を計画的に実施できるようにさせる。	32	○	○	○	
		期 末 考 査						
		第 5 章 生物活用の実践 1 交流活動の心がまえ 2 交流活動の実際	○交流活動のまとめを実施し、次回の実施に向けて思考を深められるようにさせる。	6	○	○	○	
		学 年 末 考 査						
三 学 期								

計 7 0 時間 (50 分授業)

3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 観 点	“園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用に関する基礎的な知識を身に付け、生物活用の意義や役割と生活の質の向上の重要性を理解している。	園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用に関する諸課題の解決と生物を活用することによる生活の質の向上を目指して思考を深め、基礎的な知識や技術を基に、諸課題を合理的に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用について興味・関心を持ち、生物を活用する活動の現状や今日的な課題の改善と生活の質の向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評 価 方 法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果、レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの提出状況 などから、評価します。

4 課題・提出物等

- ・レポートの記入・提出
- ・レポート・課題の作成・提出
- ・

5 担当者からの一言

園芸作物の活用方法を学び、それらを地域との交流活動に活かすことで栽培以外の農業の可能性について学んでいきます。また、交流活動をととしてコミュニケーション能力等の向上を図ります。
(担当：)